



巻
詰

之なる人



様とらへし

代清

三

上

下

信

少

妙

馬

し

中

月
史
下

ま

古



よりしる

一 古の事

宗の海に保志

宗の事

宗の事

宗の事

宗の事

宗の事

宗の事

宗の事

宗の事

宗の事

宗の事

宗の事

宗の事

宗の事

此の所の唐人を
よきしは中一より
と梅神の流相は
つ連しよりその
奔るは其の
殺通翻刻し
志はといは
志と其の
志は下り
六其の
志は下り
一其の
此の所の唐人の
の指し
と其の
刻し
其の

刻けらるる精妙な
筆跡をうらみき
李峯の刻人交
予の自筆を刻らる
しに精妙なるに
相と解し誼書も
いふしと措きん
虞と申歐陽詢を
多我功をうらみ
入るる君先教を
柳と稱の二系好
修とてみまかの
入るるを覚これい
け家
いかたわりの
いふのされい
かたと歐ん
虞凡入るるの
歐虞の王教し
かゝるものいふ

歌謡の王歌（うた）
かものものへいりてあま
入るてし魏晉（きじん）
いむしちへいむ
大成（たいせい）とる凡（ふつ）
ほよの人（ひと）あまの
まゝくへい人（ひと）が
とる玉（たま）持（も）つて
川（かわ）書（か）き、李（り）
將軍（かみ）の碑（いし）徐（じょ）浩（こう）の
室（むろ）に蔵（くら）ひ田（た）
張（ちやう）府（ふ）天（てん）の墓（ぼ）
啓（けい）教（きやう）府（ふ）を
有（あ）るもの目（め）
蘭（らん）府（ふ）を
前（まへ）に懐（くわい）素（そ）の
帖（てい）孫（そん）色（しき）庭（てい）の

前々、懐素の聖母

帖 孫色庭、虫、信、と

より、し、そ、と、十、七、帖

を、目、由、に、し、し、し、し、し、

の、元、象、籍、し、海、身、を

し、し、し、し、し、し、し、し、

よ、よ、よ、よ、よ、よ、よ、よ、

す、す、

一、書、備、し、し、し、し、し、

し、し、し、し、し、し、し、し、

の、の、の、の、の、の、の、の、

又、し、し、し、し、し、し、し、し、

の、の、の、の、の、の、の、の、

の、の、の、の、の、の、の、の、

の、の、の、の、の、の、の、の、

の、の、の、の、の、の、の、の、

の、の、の、の、の、の、の、の、

筆とてさうさうすうと

し書物を書くにさうさ

も解しかゝるものか

そなたのさうさうけ

るさうさうに會しや

ゆゑさうさうさうの

上様さうさうさうれ

今息のしきし補綴

の悟りさうさうさう

今さうさう画禪と

執筆のしきさうさう

のしきしまはしは通解の力すし腕

しきししれは海をさうさうさう

さうさうさうさうさう

さうさうさうさう懸腕

双苞手腕双苞と實指虚

掌たもさうさうさうさう

双苞 平腕双苞と實指處

掌のたゞさへはくんと有

腕腕と縁と中と自現

し中と肘と下とつて

すし中と縁と中と自現

くし中とつと子の背

平し中とつと腕と

し双苞の中指合指二

指つけしと縁と

きね人ぶらと子

人しと縁人の合指

のしつけしと縁と

ましと縁と太さ

北二指つけしと腕

と縁と縁と腕

と縁と指とつと縁

と縁と肘とたつと縁

と縁と縁と縁

てす時をたしむる
いししりひんえちね
もらつていひのりし

孝の油丸くなりしを
慮いりししと水と指丸
をるを解し腕法を
んしと欲すししち
移とちりしと持新
く腕と動しと書
りし即し

拙子考るに御痛を
書漏りぬれしし
考えつるまを考
のりのりしと
ちねなるぬしと
識しとるはるを
の書法をかんて
ち人の痛と時し
書物といふもの

寸の端と寸の糸
室物いふすものさへ
ちし物いふ休けり扱
をうさうを僻如生
ししれん師道のみ法
ちれりるちれりれ
ふ仙居のしんを
け年時いふ流其志
度人のくせをて激
細の目いふる目し
いふるいふる神の
いふるいふるし
心なるいふるを斜に
いふるいふるいふる
いふるいふる人い
けい物いふる情を去
いふるいふる澤のい
いふるいふるいふる
いふるいふるいふる

おのれはたに^いん^んのり^りのり
いとこれハ古詩正傳に
書かしてこそまゝと
直^と張^をし^て人^をま^を
俸^のち^のの^りて^は物^の
う^のち^の信^のの^りも^を
婦^のの^りま^をと^し撰^の編^の
中^のに^あら^わん^がも^は物^の
を^のす^まい^つち^のの^り
も^の也^と西^の文^を
書^がり^ても^のり^を
ま^とと^はあ^らわ^るて^は
軸^のの^りを^のり^ても^の
も^のり^をも^のり^を
も^のり^をも^のり^を
も^のり^をも^のり^を
も^のり^をも^のり^を
も^のり^をも^のり^を
も^のり^をも^のり^を

全う西の文字を
テは古詩正傳に
イハ古詩正傳に
イハ古詩正傳に
イハ古詩正傳に
イハ古詩正傳に

...の...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

● 南村書家...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

想の心

・南村書家

いふこと

あつち

いふこと

書師

るる

いふこと

懐か

事

抱か

いふこと

地

書

又

いふこと

あつち

いふこと

いふこと

あふふふふふふふふ

あふふふふふふふふ

あふふふふふふふふ

あふふふふふふふふ

あふふふふふふふふ

あふふふふふふふふ

あふふふふふふふふ

あふふふふふふふふ

あふふふふふふふふ

あふふふふふふふふ

あふふふふふふふふ

あふふふふふふふふ

あふふふふふふふふ

あふふふふふふふふ

あふふふふふふふふ

あふふふふふふふふ

あふふふふふふふふ

あふふふふふふふふ

知れ日本の人或は
唐と信じて傳へるの
人ハ此の事信じて
名取代ハ名ニ誤傳
ミテ此の事ハ生
トシ其より名取ハ
分り其の事ハ美觀
之事取捨信じて其
唐取ル事信じて其
四葉の傳授を思ふ
ト其の事ハ其の事
付ル事ハ其の事
此の事ハ其の事
拙子此の事ハ其の
唐取ル事ハ其の事
其の事ハ其の事
其の事ハ其の事
其の事ハ其の事
其の事ハ其の事

了ら

南河原様へ

人へ

の

美

金

ん

る

紙

る

あ

河

ま

う

河

又

又

又

又より古くは

百にけりしは

しは

そと

のほと

授り

く

之

を

し

あ

れ

の

け

ら

けがのちまは
ふくは

以

し

手

一 此地の如業集書

に在りては

年々付のりて

時首のりし

玉川、年魚の種

等、此地のり

苗時に隨て

と為る如く

信侯、し

とら

神

年

の

を

年

年

し

年

し
あはれに花の

あはれに花の

あはれに花の

あはれに花の

あはれに花の

あはれに花の

あはれに花の

あはれに花の

あはれに花の

あはれに花の

あはれに花の

あはれに花の

あはれに花の

あはれに花の

あはれに花の

あはれに花の

あはれに花の

あはれに花の

此のしとていふ所は
終に是の心は
百の如く成る
百の如く成る

十日。持名
水

竹村上人

持名

あしとていふ所は
終に是の心は
百の如く成る
百の如く成る
百の如く成る
百の如く成る
百の如く成る

Handwritten Japanese calligraphy in cursive style (sōsho) on aged paper. The text is arranged in vertical columns, starting from the right side of the page. The characters are dark ink on a light, textured paper background.



檢首狩為望之書簡

特別
子 6
3890
64



丙寅夏日
長城居士題

